



昨年のワールドカップは、日本代表が活躍して盛り上がった。ベスト8以上まで、もう少しだったのが惜しまれる。本稿では、ワールドカップにちなんで、サッカーチームとスポンサー企業の関係について、中国を例に見ていきたい。一般論として、強力なスポンサーはチームを急速に強くする。たとえば、ACミランとベルルスコーニ元イタリア首相、チェルシーとロシア石油系財閥などが有名である。一方で、スポンサーの弱体化はチームを弱くする。たとえば、パルマと

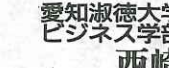
中国サッカーとスポンサー

的に消滅してしまった。覚ましい成績を収めること
さて中国では、広州恒大FC（以下「広州恒大」）がJリーグチームは広州恒大に痛い思いをさせられ
FC（以下「広州恒大」）とスポンサーの恒大集団の関係が有名だった。広州恒大のオーナー企業でもある恒大集団は、広東省深州市に本拠を置く中国有数の不動産開発会社である。過去には業界ランキング1位になっていた。広州恒大の前身は、甲級リーグ（2部リーグ）に所属する一地方サッカーチームにすぎなかった。それが、2010年に恒大集団が買収するや、同年に超級リーグ（1部リーグ）に昇格、翌年2011年には超級リーグで優勝してしまっただけである。
その後も、積極的な資金投入によって、ワールドク

広州恒大FC

発展と衰退

パルマラット、ベルルスコーニ後のACミランなど。横浜フリューゲルスは、スポンサーの撤退により実質



愛知淑徳大学 西崎 賢治 教授

ラスの監督や選手を招聘し、世界中の注目を集めた。有名所では、監督は、マルチェロ・リッピ（元イタリア代表監督）やフェリペ・スコラーリ（元ブラジル代表監督）、選手は、ブラジル代表のパウリーニョやロビーニョなどである。こうした強化策が奏功し、超級リーグ7連覇（2011年～2017年）、アジア・チャンピオンズ・リーグ（ACL）優勝（2013年、2015年）など、目

的に消滅してしまっただけである。恒大集団の債務返済危機が発覚したのである。翌年、危機は深刻化し、広州FC（2021年よりチーム名変更）への支援も縮小することになった。その影響はチーム成績にすぐに現れる。ACLではグループリーグ敗退が続き、超級リーグでも2022年、17位まで急降下し、甲級リーグ降格の憂き目に遭うことになった。
このように、広州恒大の歴史は、サッカーチームにとって、いかにスポンサーの支援が重要であるかを物語っている。
さらに注目すべき点がある。それは、サッカーチームからスポンサー企業の異変を早期察知する可能性がある。広州恒大の例では、2017年2月に中国人選手中心の編成計画を発表し、海外選手主体の強化方針からの転換を明らかにしていた。この発表は、恒大集団の危機前だったが、恒大集団の資金力の変調、さらには業績・債務状況・キャッシュフロー状況の変調も示唆している。恒大集団の内部では、2017年以前から危

にしぎき けんじ 中国企業論 財務会計。慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程満期取得退学。公認会計士。1969年生まれ。